

流行性耳下腺炎（おたふく）

○どんな病気？

ムンプスウイルスが原因で、耳下腺腫脹が主な症状のウイルス感染症です。一般には「おたふく」として知られています。

○感染経路は？

唾液中に存在するウイルスが飛沫感染、接触感染で感染します。

耳下腺腫脹などの主要症状が出現する1日前から症状出現後5日目までが最も感染力が強いです。

○潜伏期間

2～3週間（集団生活の場での流行の有無は大切な情報となります。）

○どんな症状？

耳下腺（耳の下）や顎下腺（顎の下）が腫れて、痛みを伴います。腫脹（腫れ）は両側性が多いですが、時に片側性のこともあります。口を開けたり、物を食べたり、酸味のある物を食べると腫脹部の痛みを認めます。腫脹は、多くは3～7日で消失しますが、10日くらい続く場合もあります。発熱を伴うこともあり、1～6日間で下がります。

○合併症

- ・無菌性髄膜炎：最も多い合併症で3～10%にみられます。耳下腺腫脹後3～5日ごろより発症することがあります。1週間以上続く発熱、頭痛、嘔吐、首の痛みなどがあれば疑わしいです。
- ・膵炎：膵臓が炎症を起こし、激しい上腹部痛、嘔吐を認めます。
- ・睾丸炎：小児はまれで、思春期以降で約20～30%に合併します。症状は睾丸の腫れと痛み、発熱、悪寒、下腹部痛を認めます。通常は片側性で不妊の原因になることはまれです。

- ・卵巣炎：頻度は5%です。骨盤部（下腹部）の痛みを認めます。
- ・難聴：1000人に1人と高率に認めます。多くは1週間以内に片側性の神経性難聴として発症し、治療方法がなく、難治性の聴力障害を残します。特に5～9歳のお子さんに発症しやすいといわれており、後天性難聴の原因の第1位です。これを予防する唯一の手段は予防接種です。

○治療方法

残念ながら特効薬がないため、鎮痛剤などの対症療法となります。

食事は固い物、酸っぱい物は痛みを悪化させますので、避けましょう。

○こんな時は再診してください。

- ・発熱が5日以上続くとき。または、一度下がって再び上がってきた場合。
- ・頭痛、嘔吐
- ・激しい腹痛、嘔吐
- ・おちんちんが痛い

○登園、登校はいつから？

「耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が始まった後5日を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで」出席停止です。登園・登校許可書が必要です。

○予防接種について

- ・2回接種が基本です。
1歳で1回、5～6歳で2回目の接種をおすすめしています。
- ・おたふくかぜの合併症から子どもを守る唯一の予防方法が予防接種です。
難聴の予防（治療方法がなく、一生治りません！）
- ・小学生以上でまだかかっていないお子さんは速やかに予防接種を受けることをおすすめします。男の子たち、睾丸炎はつらいですよ！
もう、「自然にかかったほうがいい」時代ではありませんね。